

## 企画書

### ○タイトル

チンポで診る女医（仮）

### ○作品概要

「フェラチオで患者を治療する」特殊能力を持った女医の仕事ぶりを、トラックごとに異なる患者の視点から描くお仕事モノ音声作品。

### ○コンセプト

#### ●フェラチオ特化×短編集

全編にわたりフェラチオをメインのプレイに据え、男性器に対する直接的な刺激に特化した描写の数々。

（エピローグ除く）各トラックが独立したフェラチオ音声集となっており、1話完結として気軽に楽しめる。

#### ●テーマは「多面性」

トラックごとに聴き手側の人物や環境が変化することで、ヒロインの声色や態度、プレイも大きく変化する。

声優様の演技分けにより、一個のキャラクターが見せる色とりどりの表情を多角的に表現。

#### ●トラック間の相関関係

「多面性」のテーマをより際立たせるため、複数のトラック間を下記2パターンによって有機的に関連付ける。

- ・前のトラックで仕込んだ前振り（伏線）を後のトラックで回収する「フリオチ」
- ・敢えてプレイ内容や流れを踏襲しつつ他の要因によってテイストを変化させる「対比」

### ○世界設定

人類ひとりひとりが何かしらの特殊能力を持つ世界。

多くの人々はほとんど役に立たない能力を持つが、稀に極めて有用な能力者が見つかることがある。

外交や社会情勢、治安等の観点から、そのような能力者は国が半強制的に管理している。

舞台は日本。上記の設定以外はほぼ現代日本に準拠。

## ○登場人物

### ●女医

- ・本作のヒロイン
- ・20代後半の女性。
- ・「男性器を咥える事で相手の身体の情報をすべて把握し、口内射精させた精液を飲み込む事で病気や外傷を完治させる」能力者。
- ・能力は男性器を前にした際、任意で発動可能。
- ・能力発動時は黒髪とブラウンの瞳がそれぞれ銀髪と赤い瞳に変化する。
- ・能力発動中は味覚が変化し、重病人の男性器ほど不味くなる。
- ・生殖能力のある男性全てを救える、世界でも屈指の極めて有用な能力。
- ・能力の詳細が発覚した10代後半の頃より国に保護され、管理の名のもとに軟禁状態を強いられながら、医療業務に日々従事している。
- ・彼女の診察を受けるためには莫大な診察料が必要（保険適用外）。
- ・それでも診察の予約が途切れることはなく、国の主要な財源の一つになっている。
- ・彼女自身への給料、待遇は（軟禁されている点を除けば）ごく一般的な20代後半の社会人程度。
- ・性格はやさぐれ気味だがオンオフの変化が激しく、外面は非常に良い。
- ・自身の境遇に不満はありつつも、仕方のないものとして受け入れてもいる。
- ・国に保護された当初（10代後半）は引っ込み思案な性格で己の境遇を嘆いていたが、10年の歳月を経て摩耗し当時の面影はほとんど残っていない。
- ・やさぐれている反面、現在では「フェラチオ」「飲精」という行為そのものに対して仕事や医療行為の枠を超えた楽しみを見出しており、男性器への執着が非常に強い。
- ・元来の客対応の良さもあり、施術時はまるで性風俗店のような濃厚なサービスを見せる。
- ・声質や態度はトラック毎に変化するため後述します。

### ●研修医

- ・トラック1の聴き手役。
- ・研修医であり、ヒロインより年下。
- ・新人研修という名目での行為。作中で唯一、身内側にあたる人物のため、ヒロインのやさぐれた地の部分を受け止めるシチュエーションを担当する。

## ●成金社長

- ・トラック 2, 4 における聴き手役。
- ・40 代男性。
- ・一代で財を成した豪傑で精力旺盛。
- ・有り余る金と性欲を持て余し、週に 1 回のペースで施術を受けている贅沢者。
- ・包茎描写あり。
- ・男性器が臭く汚いため、ヒロインからの好感度は極めて高い。「どうせ毎週来るから」  
との理由により能力を使わず純粋にフェラチオを楽しんでいる節がある。

## ●不審者

- ・トラック 3, 5 における聴き手役。
- ・30 代男性。
- ・どうにも不審ないでたちで、一般的な患者と挙動が異なる。
- ・病気を患っている様子も特に見られない。
- ・ヒロインも不審さを隠せないままに施術を行っていく。
- ・特殊能力は「自分の精液を直飲みさせた相手から任意の期間の記憶を消去する」。
- ・ヒロインの職務怠慢（トラック 2, 4）に対する国からの制裁措置として派遣されている。（裏設定）
- ・過去にも既に一度制裁として記憶消去を行っているが、ヒロインには記憶がない。

## ○トラック詳細

### 1. 「VS 研修医」

- ・導入にあたるトラック。聴き手は研修医。
- ・新人研修という名目で、世界観やヒロインの特殊能力について解説しつつのプレイ。
- ・テーマは「内面（うちづら）」。
- ・聴き手が患者ではなく部下の為、ヒロインもキャラを作らずに地の性格で接する。
- ・声質は低め、キャラクターとしての地声感が出るようにお願いします。
- ・お芝居はやさぐれ気味でがさつ。やや男性的。後のトラックと比較してギャップが出るよう気持ち大げさにお願いします。
- ・「聴き手に対して仕事の意義など論すが、実情は本人が一番楽しんでいる」というトラック 2 に対する「フリオチ」の「フリ」。
- ・耳舐め手コキ→フェラチオというほぼ同等の展開でありながら、相手が身内か客かでヒロインの態度に変化を持たせるトラック 3 との「対比」。

## 2. 「VS 成金社長」

- ・聴き手は常連患者。本作のメインにあたるトラックの1つ。
- ・お気に入りの常連客相手に濃密なプレイを行う。
- ・本トラックではヒロインは**能力を発動していない**。(発動するとお気に入りの客の男性器をともに味わえなくなる。どうせ毎週来るから。等の理由により。)
- ・完全に職務放棄しており、純粋にフェラチオを楽しんでいる。
- ・テーマは「外面（そとづら）」
- ・声質は中音域。客を相手にしたよそ行きの声。
- ・聴き手を客として尊重しつつも自身の性欲に一切ブレーキを掛けない、肉食系風俗嬢のような妖艶なお芝居をお願いします。
- ・耳元囁き、チン嗅ぎ、恥垢舐めとり、フェラチオ、嚥下等、一つ一つのプレイはじっくり丁寧に、時間をかけて噛みしめるようにお願いします。
- ・「聴き手に対して仕事の意義など論すが、実情は本人が一番楽しんでいる」というトラック1に対する「**フリオチ**」の「**オチ**」。
- ・聴き手が同一、かつプレイ内容もほぼ同等でありながら、ヒロインの精神状態が大幅に異なることで態度に変化を持たせるトラック4との「**対比**」。

## 3. 「VS 不審者」

- ・聴き手は見るからに不審な患者。
- ・不審で奔放な聴き手の挙動に振り回されつつ、施術を行うトラック。
- ・聴き手側からのアクションが最も多く、受け身のお芝居が頻発します。
- ・テーマは「外面＋不信心」
- ・声質とお芝居は中音域で低音側にふり幅が大きめ。基本はよそ行きの声で客対応するが所々で地が出かかる、というイメージ。
- ・終盤の聴き手の能力判明以降（イラマチオのシーン）からは一転、完全に被害者の立場のお芝居に変化します。
- ・聴き手のアクションに対して無言でにらみつける、というようなシーンが複数あります。吐息や有声音などで表現いただけますと幸いです。
- ・序盤の「どこかでお会いしたこと、ありますか？」という台詞は、トラック5終盤のネタバラシに絡んだ重要な台詞です。リスナーが何となく印象に残ると感じる程度に、わずかに強調してください。

- ・耳舐め手コキ→フェラチオというほぼ同等の展開でありながら、相手が身内か客かでヒロインの態度に変化を持たせるトラック 1 との「対比」。
- ・ここでの事件が後のトラックにおけるヒロインのキャラクター性に大きく影響する、トラック 4 に対する「フリオチ」の「フリ」。
- ・特定の台詞を重複させることでネタバラシを行う、トラック 5 に対する「フリオチ」の「フリ」。

#### 4. 「VS 成金社長②」

- ・聴き手は常連患者。(トラック 2 と同一人物)
  - ・本作のメインにあたるトラックの 1 つ。
  - ・トラック 3 直後のエピソード。
  - ・トラック 3 の事件により過去 10 年分の記憶を失ったヒロインが、戸惑いや羞恥に塗れた理性と発情し続ける身体とのアンマッチに翻弄され、再度肉欲に溺れていく。
  - ・本トラックではヒロインは**能力を発動していない**。(身体側の性欲に振り回されているため。)
- ・テーマは「記憶喪失」。
- ・ヒロインは過去 10 年分の記憶を失っており、人格が国に軟禁される以前、10 代の頃にまで退行している。
- ・声質は高めでやや上ずっている。10 代後半で引っ込み思案なキャラクターのイメージ。
- ・トラック 3 の直後で状況が理解できておらず終始怯え気味。
- ・聴き手と面識がなく性的な経験も皆無なため、フェラチオという行為に対しては否定的で嫌悪感も強い。
- ・ただし身体は 20 代後半のままであり、この 10 年で培った診察の経験や性的嗜好が染みついているため男性器を見ただけで無意識に発情してしまう。
- ・理性と身体のギャップに苦しみながら、徐々に身体の側の欲求に流されていく様子を表現いただけますと幸いです。
- ・聴き手が同一、かつプレイ内容もほぼ同等でありながら、ヒロインの精神状態が大幅に異なることで態度に変化を持たせるトラック 2 との「対比」。
- ・前トラックでの事件がヒロインのキャラクター性に大きく影響する、トラック 3 に対する「フリオチ」の「オチ」。

## 5. エピローグ

- ・聴き手はトラック 3 と同一人物。
- ・トラック 3, 4 から数週間後のエピソード。
- ・記憶を失うも改めて男性器への執着を獲得し、以前よりも性に貪欲でだらしなくなったヒロインの末路を描く。

- ・声質は高め。トラック 4 をベースに、妖艶さや下品さが過剰に追加されたイメージ。
- ・知性や記憶がリセットされても身体に蓄積された経験は失われないため、記憶を失う前（トラック 2）以上に身体の欲求に振り回されておりコントロールが全く利かない状態。
- ・性欲に振り回されているため、以前にも増して能力を使っていない。フェラチオそのものに執着しすぎており職務怠慢はさらに顕著となっている。
- ・時系列がトラック 4 の直後だとリスナーに勘違いされないよう、お芝居は前トラックから大幅に落差をつけていただけますと幸いです。

- ・最終盤の「どこかでお会いしたこと、あります？」という台詞は、トラック 3 内の同一の台詞と意図的に重複させたネタバラシ用の台詞です。この台詞のみ、声質やお芝居をトラック 3 に寄せて、強烈な違和感が出るようにお願いします。

- ・特定の台詞を重複させることでネタバラシを行う、トラック 5 に対する「フリオチ」の「オチ」。